

来自读者 どくしゃ
読者より

贴近归国者的护理设施

帰国者に寄り添う介護施設

现在，手里拿着这本《天天好日》的，是遗华日本人第一代呢……还是第二代？第三代？亦或是平日里从事或是参加归国者支援活动的人士呢？我们中心的工作人员每次都会是一边想象着是什么样的人在阅读，一边撰写、编辑手稿，我们衷心希望刊载的文章能为大家提供哪怕是些许的帮助。

在这样的情境中，我们接到了阅读了上期的一位读者打来的一个很令人高兴的电话。

在《天天好日》中有个叫做“新闻摘要”的专栏，里面汇集了一些与遗华日本人有关的新闻报道。

在第 81 期中，有一篇《日托服务 Y》的采访文章。给我们打电话的正是一位阅读了这篇文章的读者。得知读者连这么小的文章都会仔细阅读，这也令我们欣慰不已。

给我们打来电话的是居住在四国的 80 多岁的 T 女士，她本人是遗华孤儿。T 女士说，她现在是和 80 多岁的丈夫两个人一起生活。可是，大约三年前，她的丈夫开始出现了认知（痴呆）症的症状，从此他们每天的生活都变得非常艰辛。随着她丈夫的认知症的加重，而她自己也因为上了年纪，即使是身体难以自如地行动、做事，却也不动脑子考虑两个人的事、干两个人的活儿，精神状态垮了下来，甚至想到了结束自己的生命。后来，也就是两年半前，她丈夫先开始利用了“日托服务 Y”，从一年前开始，T 女士也和丈夫一起利用起了“日托服务 Y”。

给我们打电话时，T 女士说的第一句话

「今、この「天天好日」を手にとってくださっているのは、中国残留邦人 1 世の方でしょうか……2 世？3 世？もしかしたら白ごろ残留邦人の支援に携わっておられる方かもしれませんね。私たちセンタースタッフは、どんな方が読んでくださっているのだろうと想像を巡らせ、少しでも皆さんの役に立つ記事が掲載できたらいいな、と思いながら毎回原稿を書いたり編集をしたりしています。」

そのようななか、前号を読んだ方からうれしいお電話をいただきました。

「天天好日」には「ニュースの記事から」という、中国残留邦人に関連する報道を集めたコーナーがあります。

81 号に「デイサービス Y」の取材記事があり、それを読んだ方からのお電話でした。小さい記事にまで目を通してくださっていることが窺え、こちらもありがたい気持ちでいっぱいになりました。

お電話くださったのは、四国に住む 80 代の T さん、中国残留孤児ご本人です。同じ 80 代のご主人と二人暮らしですが、3 年程前からご主人に認知症の症状が出始め、辛い毎日が始まったそうです。ご主人の認知症が進むにつれ、自分自身も高齢で身体が思うように動かないのに、二人分の頭と労力を使わなければならない、精神的にまいってしまい、自ら命を絶つことまで考えたといいます。その後、2 年半前にご主人が先に「デイサービス Y」に通いだし、1 年前からは T さんも一緒に通うようになったそうです。

お電話をくださったときの T さんの第一声が、「Y は本当にいいところなんよー、書いてくれてありがとう」でした。

就是“Y真是一个非常好的地方啊，谢谢你们写的文章。”

据 T 女士说，她所利用的“日托服务 Y”一天的活动安排和内容（迎送、测量体温、测量血压、做全身运动、做手部和头部体操、做用筷子夹豆子游戏等），好像与其它护理设施也没有什么不同。那么，这家护理设施究竟好在什么地方呢？T 女士说“比什么都令人高兴的事”是“能够平等地对待利用者”。

“日托服务 Y”里有 9 名中国归国者与一般的日本人的利用者在一起利用。但是，所有的工作人员对归国者是战后长期滞留在中国、难以返回日本的这段苦难经历的背景都很理解，而且都在努力学习中文，还不断地主动使用中文交谈。听说在供餐方面，还会先主动向归国者请教做法、在网上查阅做法，为归国者们提供中式饭菜。

T 女士说，在中国时，由于自己是日本人而难以容身，可是在终于返回日本后，却又被人称为“中国的阿姨”，对自己不能被人认作是日本人一事感到非常悲哀。也不知为此苦恼伤感过多少次，而现在，在“日托服务 Y”里，可以和大家一起开开心心地度过时光，觉得自己非常幸福。

天天好日编辑部也向“日托服务 Y”打电话询问状况。他们回答说，工作人员都会说的中文是他们每天早上通过观看“油管（YouTube）”的视频学来的中文。另外，中国菜多是在中国归国者集中利用日托服务的星期一、三、五供应，而给日本人的利用者提供的则是控制了辣味的食物。

“日托服务 Y”在护理的基本方针中推出了“活出自我（以自己的方式生活）”的理念，为利用者准备了能够发挥他们以前的工作经验、技能的各种作业、活动。即便是在新型冠状病毒流行的现在，在充分注意预防感染的同时，依然坚持开业，并且也还在努力坚持实施着尊重每一个人的能力和爱好的参加型的护理方式。此外，



お話を聞くと、「デイサービス Y」の一日の活動の流れや内容（送迎、検温、血圧測定、全身運動、指や頭の体操、箸で豆をつまむゲームなど）は、他の介護施設と変わらないようです。ではどこがそんなにいいのでしょうか？ T さんが「何よりもうれしい」というのが、「利用者を平等に扱ってくれる」ことだといえます。

「デイサービス Y」は一般日本人の利用者に交じて 9 名の中国帰国者が利用していますが、スタッフはみな皆、帰国者が戦後中国に残され長年日本に帰れず苦労した背景を理解しており、中国語を勉強し、どんどん使って話しかけてくれる。食事も、帰国者に作り方を聞いたたりインターネットで調べたりして、中華料理を出してくれるといえます。

中国にいたころ日本人だということで肩身の狭い思いをしていた T さんが、やっと日本に帰ってこられたというのに、今度は「中国のおばちゃん」と呼ばれ、日本人として見てもらえないことが悲しかったそうです。幾度となく悔しい思いをしましたが、いま「デイサービス Y」で、みんなが仲良く過ごせることがとても幸せだといえます。

天天好日編集部でも「デイサービス Y」に電話でお話を伺いました。スタッフ全員が話せるという中国語は、毎朝「YouTube（ユーチューブ）」の動画を見て勉強しているそうです。また中華料理は帰国者が集中して来訪する月、水、金曜日に多く提供するようにし、日本人利用者には「辛み」を抑えたものを食べてもらうとのことでした。

「デイサービス Y」は、介護の基本方針に「その人らしく生きる」を掲げ、利用者の前職や特技を活かして様々な作業を用意しています。新型コロナウイルス感染症

如果遇到需要进行比较复杂的沟通时，就利用“中国・四国中国帰国者支援・交流中心”的护理支援事业中实施的“交谈志愿者上门访问”的服务，先听取归国者的想法。

随着归国者的高龄化，利用护理设施的归国者也在不断增加。我们衷心希望每一位利用者都能像 T 女士那样，在护理现场不是处于孤立状况，而是能在理解归国者的背景、并贴近归国者的环境里度过充实愉快、精神生活丰富的晚年。 (Y)

が流行している今も、予防には十分に気を配りながら事業を継続し、一人一人の能力や好みを尊重した参加型の介護方式もなんとか続けているそうです。また、複雑な意思の疎通が必要な時は、「中国・四国 中国帰国者支援・交流センター」が介護支援事業で実施している「語りかけボランティア訪問」を利用して、帰国者の想いを聞き取っているとのことでした。

帰国者の高齢化に伴い、帰国者の介護施設の利用が増えていきます。T さんのように、介護現場で孤立することなく、帰国者の背景を理解し寄り添ってくれる環境の中で、心豊かな老後が送れることを願っています。 (Y)